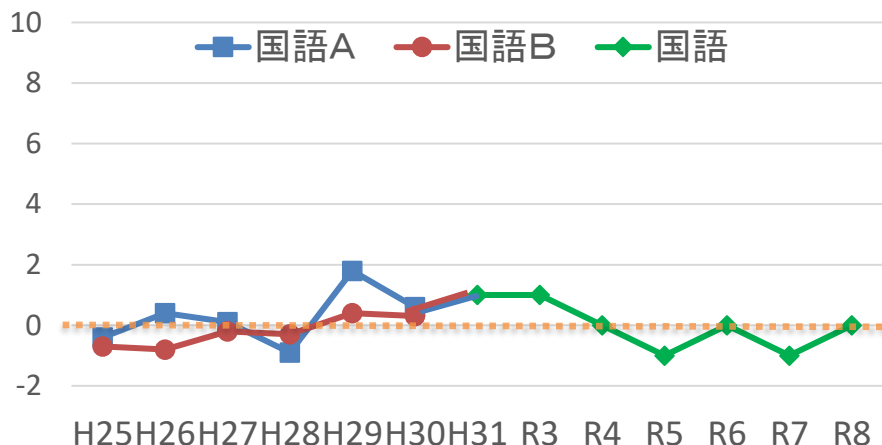


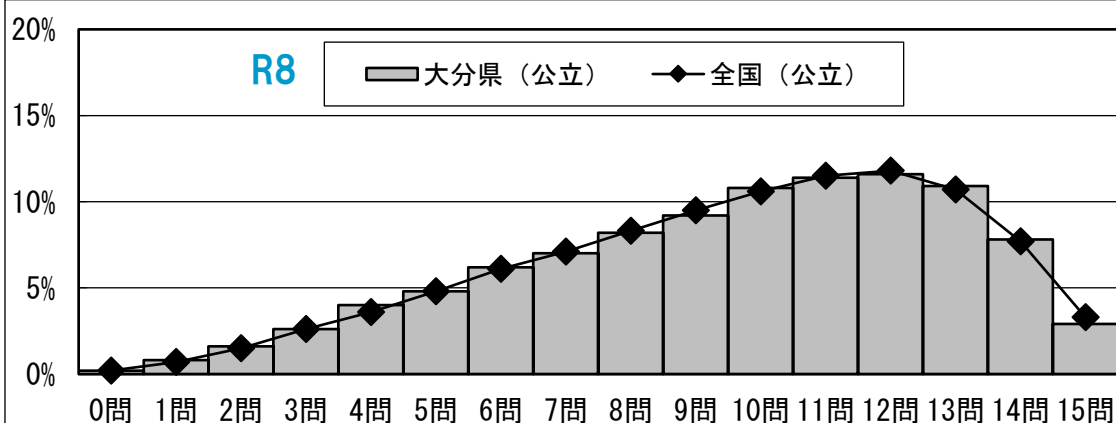
結果のポイント

1 全国平均との差の経年変化



○全国平均並みである。

4 正答数度数分布



2 領域別の結果

学習指導要領の内容	県	全国平均
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.3	63.0
(2) 情報の扱い方に関する事項	68.3	70.4
(3) 我が国の言語文化に関する事項	—	—
A 話すこと・聞くこと	64.1	63.9
B 書くこと	67.0	67.4
C 読むこと	60.0	59.7

▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」は、全国平均を下回る。

3 観点別の結果

観 点	県	全国平均
知識・技能	63.3	64.2
思考・判断・表現	63.7	63.7

▲「知識・技能」の観点で、全国平均を下回る。

▲低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より多い。
▲正答数が全国平均以上(10問以上)の生徒の割合は全国値を下回る。

課題が見られた問題と指導の改善

正答率が低く、無解答率が高い問題

大問4設問二 【平均正答率 大分県33.0% 全国35.2%】

【無解答率 大分県21.9% 全国19.8%】

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる問題。

文章中の—線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べた。この【国語辞典に載っていた意味】を参考にして、6段落にある「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現のうちどれか一つを抜き出して答えること。

調査結果から見える生徒の実態

【正答例】

- ◎「ありありと映し出している」◎「心に思い描く」
- ◎「包括的に含んだイメージを得る」

【誤答例】

- ・「ありありと」「包括的に」「イメージ」
- ・「ことば以外の部分にもたくさんの意図を託している」
- ・「たくさんの意図を託している」

- ▲「ほうふつとさせる」の意味の全体を正確に捉えることができず、「ほうふつ」の意味の一部だけを捉えている。
- ▲文脈上の意味を捉えられず、6段落から同じような内容を表す別の表現を捉えることができている。

【国語辞典に載っていた意味】

ほうふつ 【彷彿】 ① はっきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。② おぼろげなさま。はっきりしないさま。

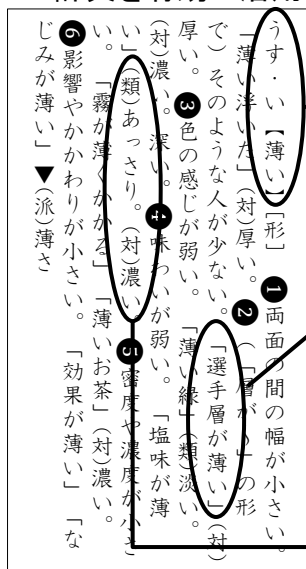
指導の改善

- 語句の文章上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えることが大切である。

語句に着目し、その語句が文や段落においてどのような役割を果たしているかを捉え、その語句と文章中の他の語句との関係を考えることも重要である。

【学習指導のポイント】

- ☑ 言葉の意味を確認するだけに終わらず、語彙を豊かにするために国語辞典を有効に活用する。



- ① 一つ一つの語句の意味には広がりがあり、国語辞典には、①—②—のように示されている。国語辞典を活用するときには、一部だけを見るのではなく、その言葉の全体を捉えることが大切である。その上で、文章の中でその語句がどのように使われているのかを確認するなどして、その語句を自分の語彙にしていけることが大切である。

- ② 見出し語について、意味だけでなく、用法や例文に目を通すことも大切である。語句を学習するときには、意味を知るだけでは不十分であり、話や文章の中では使い方も合わせて確認することで、自分の表現を豊かにすることができる。

- ③ 類義語、対義語などの関連語に目を向けることも大切である。関連する語句を自分の語彙の中に増やすことで、語句同士のつながりが見えてくる。

語句の文脈上の意味を正確に捉えるためには、辞書を活用して語句の意味や使い方に対する認識を深めることが大切である。その上で、文章中の語句と語句との関係性を捉えることによって、文章の「構造と内容の把握」や「精査・解釈」を確かにしたり深めたりしていくことができる。